

明化小学校現校舎の特徴

(1) はじめに

明化小学校校舎は昭和5年に建築された小学校で、大正12年に起きた関東大震災の震災復興期に建てられた小学校建築のひとつです。

震災復興期に建てられた小学校は鉄筋コンクリート造で柱や梁が現行の鉄筋コンクリート造の校舎に比べて太く、水洗トイレやガス設備等を備えた当時としては最新鋭の学校建築でした。デザインは曲線を取り入れたシンプルな外観、内観が特徴です。復興小学校⁽¹⁾と改築小学校⁽²⁾とに大別されます。

(2) 内観・外観の特徴

外観：正面および校庭側にみられるベランダや外周部にみられる水平ライン など

内観：アーチ状の天井、丸柱、木製の廊下、石と木でできた階段 など



外観：正面側

外観：校庭側

内観：アーチ天井

内観：廊下・階段

(3) 細部の特徴

木製の教壇、人研ぎ仕上げの流し台、木綿を押し当てて模様をとった壁や床のタイル、鋳物の教室札、吹きガラスの木製窓、丸窓 など



木製の教壇

人研ぎ仕上げの流し台

壁のタイル

鋳物の教室札

⁽¹⁾復興小学校：関東大震災によって焼失した小学校を鉄筋コンクリート造3階建て構造で復興・再建した学校建築を指す。

文京区においては湯島小学校、旧元町小学校が該当

⁽²⁾改築小学校：罹災しなかった残存区域小学校と復興小学校との施設規模の格差から鉄筋コンクリート造化が進められた残存区域の学校建築を指す。文京区においては小石川高等小学校、関口台町小学校、窪町小学校、明化小学校、昭和小学校、汐見尋常・高等小学校が該当

※参考：小林正泰著『関東大震災と「復興小学校」』、神奈川大学関東大震災復興データベース